

94. 「弘前大学震災研究交流会」の開催

(調査・研究)

実施時期又は期間

平成23年7月12日～継続中

(第1回～11回は「弘前大学震災研究連絡会」として実施。第12回～名称を「弘前大学震災研究交流会に変更」)

対応部局及び人員

大学院地域社会研究科教員，院生，特別研究員
大学院理工学研究科の協力

実施の背景・目的

弘前大学震災研究交流会は，弘前大学内はもとより，研究者・市民・行政などの関係者のネットワークを戦略的に拡大させるとともに，弘前市・平川市・青森県をはじめ，関係自治体との連絡を密にし，総合的地域社会研究に向け文理融合の研究体制を構築するとともに本学中心のプラットフォームを形成するために実施したものである。

実施概要

回	日付	講演者(所属)	講演題目
1	H23/7/12	小岩 直人 (弘前大学教育学部 教授)	三沢市における東北太平洋沖地震に伴う津波被害の特徴
		丹野 正・檜 貢 (弘前大学大学院地域社会研究科)	『調査方法論～大型津波災害時の避難住民と自治体災害対策本部との関係～』事前調査報告
2	H23/8/2	片岡 俊一 (弘前大学大学院理工学研究科 准教授)	2011年東北地方太平洋沖地震の地震動と地震動による被害の概要
		檜引 素夫 (専門地域調査士・弘前大学地域社会研究会)	震災とメディア
3	H23/9/1	小菅 正裕 (弘前大学大学院理工学研究科 教授)	東日本大震災を踏まえた長期的地震防災力向上プロジェクト
		李 永俊 (弘前大学人文学部 教授)	北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究－社会・経済・法的アプローチ
4	H23/9/30	丸山 浩治 (弘前大学大学院地域社会研究科 2年)	津波被災地域と埋蔵文化財
		檜引 素夫 (専門地域調査士・弘前大学地域社会研究会)	震災とメディア (続報)
5	H23/11/7	浅利 靖 (弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター長)	福島第一原子力発電所事故への医療対応
		北原 啓司 (弘前大学教育学部 教授・副学部長)	被災地支援から復興計画支援へー国はいま何をしようとしているのかー
6	H23/12/13	工藤 誠治 (弘前市医師会救急災害対策委員長・EST2クリニック院長)	震災時の医療救護活動における弘前市医師会の参加
		遠藤 明 (弘前大学農学生命科学部 准教授)	農地土壌の塩類汚染浄化に向けた取組み
7	H24/1/26	檜 貢 (弘前大学大学院地域社会研究科長)	津波被災時の住民避難行動と行政～八戸市調査から～
		井口 泰孝 (弘前大学 監事)	青森県の良さと強みを生かした復興ビジョン
8	H24/3/6	檜垣 大助 (弘前大学農学生命科学部 教授)	東日本大震災における斜面災害の発生実態
		白石 睦弥 (弘前大学特別研究員)	近世・近代における震災対応と復興
9	H24/4/4	田中 重好 (名古屋大学文学研究科 教授)	東日本大震災：社会学から何を問うか
10	H24/5/8	佐藤 魂夫 (弘前大学大学院理工学研究科 教授・地震火山観測所所長)	青森県東方沖で発生する最大クラスの地震と津波の想定
		小岩 直人 (弘前大学教育学部 教授)	津波堆積物からわかるもの

11	H24/7/6	新城 榮一（株式会社ニセンエックス代表取締役CEO、いわきパイロットオフィスインキュベーションマネージャー）	福島県の復興について—インキュベーションマネージャーからの視点—
		櫛引 素夫（弘前大学地域社会研究会・NPO 法人青森県防災士会 理事）	防災と共助—青森県防災士会の取り組み
12	H24/9/11	檜櫃 貢（弘前大学院地域社会研究科長）	東日本大震災に係る復興支援が生み出す地域社会の復元力形成に関する研究
		白石 睦弥（弘前大学特別研究員）	青森県における災害時の歴史資料保存
13	H24/10/9	三上 真史（弘前大学教育学研究科1年）	津波被災地の社会的被害の分析と課題～岩手県野田村の事例から
		佐藤 和之（弘前大学人文学部 教授）	大規模災害時の外国人被災者への情報伝達について考える～「やさしい日本語」は阪神淡路・新潟県中越・東日本大震災でどう使われたか
14	H24/11/1 (書評会)	白石 睦弥（弘前大学特別研究員）	『辺境』から始まる』書籍紹介
		平井 太郎（弘前大学大学院地域社会研究科准教授）	書評「東京の震災論／東北の震災論」（『辺境』から始まる」、第1章、山下祐介著）
		山下 祐介（首都大学東京都市教養学部 准教授）	著者からのリプライ

効果又は結果

発表者は本学の震災関連研究を行う研究者・大学院生だけではなく、他大学の研究者のほか、研究発表を聴講するために市民や医師会関係者・メディア関係者などが集まるようになり、内外で関心が高まっている。

「弘前市防災マイスター講座」実施の情報交換等が行われ、参加者の中から当該講座に講師として参加するなど、新たな動きも出ている。

また、年度末に向けて、活動報告の出版準備を行っている。

今後の課題

震災研究のプラットフォームとしての成長過程にあるものの、講演者への旅費、謝礼等を支払っていない等、実施体制・予算等が不十分であり、組織的対応を今後の課題として認識している。

担当部局名

大学院地域社会研究科



第10回震災研究交流会の様子



震災研究交流会案内